

一般教養問題

25/01/29

I 以下の文を読み、それぞれの問いに答えなさい。

「美しい」と感じるのは主観です。その主観があてになるかどうかは別として、まず「美しい」と感じるのは主観です。その主観があるにもかかわらず、どうして「美しい」に関する判断基準は、「自分の外側」なんてところに存在してしまうのでしょうか？ この謎を解いてみましょう。

まず、美術品とか宝飾品という「価値の高い物」を頭に思い浮かべて下さい。この値段は、誰が決めるのでしょうか？ あなたではありません。あなたの外側で、その値段は決められます。

あなたがその「買い手」であるとして、あなたにその値段は決められません。「売り手」が決めます。あなたが「売り手」であるとしても、その値段はあなたが決められません。買い手が「うん」と言わなければ、その価格設定は成り立ちません。あなたが売り手であろうと買い手であろうと、その値段は、相手が「うん」と言わない限り、値段として成り立ちません。つまり、値打ちとは「自分の外側」で決まるものなのです。

「美しい」を論じるのに値段を持ち出すとは何事」と仰言る人もおありかもしれませんが、美術品や宝飾品が「高価なもの」であることは事実です。「ただのもの」「なんのへんてつもないもの」と思われていたものに高い値段がついてしまったら、それはその瞬間から「美術品」にもなっています。「美しいものが好きだけどアクシユミ^Aな人」というのは、「審美眼がない」以前に、「美しいもの」価値の高いもの」と錯覚をしていることが多いのです。

「美しいから価値が高い」は、たやすく「価値が高いから美しい」という錯覚を生みます。「美しいものが好き」と言つてアクシユミ^Aだけの人の多くは、ただ単に「価値の高いもの」価値が高いと言われるものが好きだけなのです。だからこそ、「本物とは似ても似つかない贋物」を大切に崇めてしまうのです。それくらい、美術品や宝飾品は価値が高いのですが、では、その「価値の高さ」はどこから生まれるのでしょうか？ それは、「美術品や宝飾品はなぜ値段が高いのか？」を考えれば分かります。

なぜ値段が高いのか？ 誰かがその値段を高くしたのか？ 違います。美術品や宝飾品は、そもそも値段が高いのです。だから値段が下げられないのです。

では、そもそも値段が高いのはなぜでしょう？ その製作原価が高いからです。普通はそんな風に考えませんが、よく考えればそうです。それでは、なぜ美術品や宝飾品の製作原価は高いのでしょうか？ 金や銀や宝石という、値段の高いものがふんだんに使われているからだけではありません。ここには、「完成までの期間レオナルド・ダ・ヴィンチを丸抱えにする」というような、質的にとんでもない経費も含まれているからです。そしてもちろん、レオナルド・ダ・ヴィンチのギャラがとんでもなく高いのは、彼が一流の芸術家だからではありません。そもそも、「美術品は高価であつてもいい」という前提があればこそ、その製作に関わる芸術家のギャランティは高くなる——つまり、美術品とはそもそも、製作原価が高いものなのです。

それでは、なぜ「美術品は高価であつてもいい」などという前提が生まれたのでしょうか？ それは、美術品や宝飾品のそもそもが、「値段は高くてもかまわない。自分の勢威を誇示¹するためなら、高ければ高いほどいい」と言う、王侯貴族のために作られたものだからです。美術史の本をちょっとでも紐とけば分かります。古い時代の美術品は、みんな王侯貴族のような特別の人のために作られたものなのです。普通の人間の生活のためものなら、美術館には行かず、歴史のあり方を展示する博物館に行きます。「普通のもの」をグレードアップさせて「美術品」とするためには、普通ならざる財力を必要とします。それあつてこそ「美術品」なのです。

たとえば、特別に高価な材料を使つているとは思えない「素焼の人形」である埴輪²です。埴輪一つを作るのにたいした経費がかかるとも思えませんが、埴輪は、古代の権力者の副葬品²です。これを作ることは、巨大な古墳を作ることとセットになっています。巨大な古墳を作る財力がなかつたら、素焼の埴輪一つでさえ作れないのです。

美術品や宝飾品は、そもそも普通の生活には必要のないものです。それを「必要だ」と言えるのは、特別な力を持った者だけで、だからこそ、美術品や宝飾品は「王侯貴族のもの」としてスタートします。それを基準にして、その時代その時代の特別な力を持ったユウフク^Bな人間達のために、美術品というのは作られるのです。「美しいのは特別なものではない。生活の中から生み出されたものは、それ自体が固有な美しさを持っている」という思想が生まれるのは、二十世紀になつてからのことなのです。つまり、「美しいもの」美術品」を追い求めるのは、前の時代に権力を持つていた人間達の「特別」を追い求めるのとおんなじだということです。その前提があるから、「美しいもの」美術品は価値が高いのです。——そういう側面だつてあるのです。

つまり、「美しいものを追い求める」には、「失われた過去の時代の特権を求める」という側面もあるのだということです。その点で、「美しい」は制度です。「なにが美しいかは決まつている」とか、「美しいものは価値が高いに決まつている」というのには、「王様や貴族は、王様や貴族だからえらいに決まつている」というのと同じ側面だつてあるのです。

「美しい」には、そういうキケンな側面もあります。だから^C「ひらがな日本美術史」という本の著者である私は、美術品を見る時、「美しい」という基準を一時的に棚上げ³にします。その代わりに、「カッコいいかどうか」という、主観によって判断します。(中略)

「カッコいい」というのは、一九五〇年代の初めにデビューした太陽族のガンソ^D——石原裕次郎の口癖から広まったものだと言われています。言つてみれば、それは「不良の言葉」です。そういう出自⁴だから「低俗な言葉」とも思われていますが、歴史的に見れば、これは、第二次世界大戦^Eによって既成の秩序が崩壊してしまつた後に出現した言葉です。「美しい」を成り立たせる制度が崩壊してしまつた後に、この言葉は出現した。そして時代は、王侯貴族を再出現させる方向へ進まなかつた。それは「過去」となつてしまつた制度で、かつてのような「美しい」は、もう制度的

●

に成り立たない。(中略)

私は別に、「カッコいい」という言葉がありさえすれば美しいという言葉は不要になる」と言っているわけではありません。「カッコいい」でカヴァー⁵しきれない「美しい」は、いくらでもあります。なにしろ「カッコいい」は、自分の欲望と直結している「利己的な感動」でしかないからです。「これはカッコいい」とは違う——でも、なんだか重要な意味がありそうだ」と思わせるようなものは、この世の中にいくらでもあります。「自分にとってのいい女やいい男ばかりを求めていると、美しい女や美しい男が見えなくなる」というのとおなじです。

「カッコいい」は利己的な感動なので、対象と自分とのつながりが見えない限り、作動することが出来ません。「これにはなんか重要な意味がありそうだが、自分にはカッコいいとは思えない」という時には、「その対象と自分との関係」が見えないのです。自分とどう関係があるのかが分からなかったら、「カッコいい」も「悪い」もないでしょう。そしてまた、「カッコいいのかもしれないけど、このど、こがカッコいいのかはよく分からない」ということだつて起ります。「自分の必要」は「自分の能力の限界」でもあつて、そのキャパシティを超えてしまったら、これまた「よく分からない」になるでしょう。

人間は利己的な生き物で、よほど特別な人でもない限り、普段は利己的に生きています。ところがしかし、世の中というのは、そうそう一人の人間のツゴウ^Eに合わせて出来上がっているのではないので、一人の人間の利己的な感動が、そうそうすべてをカヴァー出来るモノサシにはなれないということです。「これはカッコいいのかもしれないけど、ど、こがカッコいいの分からない」と思ったら、まず自分の利己的なモノサシを引く必要があるとあります。他人には他人の立場があつて、その他人の立場は、自分ならぬ「相手のモノサシ」でしか測れないからです。

「他人は他人のツゴウ^Eで生きていて、こちらのツゴウ^Eでは生きていない」ということが明らかになってしまったら、そこにはもう「カッコいい」という利己的な叫びは登場しえません。他人の耳に届かないように、独りで寂しく「カッコいい……」とつぶやくしかないでしょう。そして、「自分とは関係ない他人は、すべて不要な他人なのか?」と言ったら、決してそんなことはないでしょう。「自分とはなんの関係もないけど美しい」という事態に対して、「カッコいい」という利己的な声は意味を持ちません。だからこそ、利己的な欲望を離れた、「美しい」というつぶやきはあるのです。

※註「ひらがな日本美術史」……小説家・橋本 治による日本美術の批評集。古代～現代の仏像・建築・絵画・広告ポスターなどから任意に作品をピックアップし、独特の観点からその美の特性、歴史的・思想的背景などを論じている。

(橋本 治「人はなぜ「美しい」がわかるのか」より引用)

問1 傍線1～5の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問2 傍線A～Eのカタカナを漢字で書きなさい。

問3 傍線部イ「レオナルド・ダ・ヴィンチ」の作品として適切でないものをa～dのなかから二つ選び、符合で答えなさい。

a 『最後の晩餐』 b 『ヴィーナスの誕生』 c 『最後の審判』 d 『モナ・リザ』

問4 傍線部ウ「『美しいのは特別なものではない。生活の中から生み出されたものは、それ自体が固有な美しさを持っている』という思想が生まれるのは、二十世紀になってからのことなのです」とあるが、日本の歴史において、このことともっとも関係の深い人物を次のa～eの選択肢から選び、符合で答えなさい。

a 伊東 忠太 b 尾形 光琳 c 伊藤 若沖 d 葛飾 北斎 e 柳宗悦

問5 傍線部ア「美術品や宝飾品が『高価なもの』であることは事実です」とあるが、その根本的な理由を述べた部分を本文中から九文字でそのまま抜き出して書きなさい。

問6 下記のa～eの文章を読んで、本文の内容と合致するものには○、本文の内容と違うものには×を付けなさい。

- a ものの値段を決めるのは売り手である。
- b 美術品・宝飾品は必ずしも高価ではない。
- c レオナルド・ダ・ヴィンチは一流の芸術家ではない。
- d かつて美術品・装飾品は有力者・権力者のためだけに作られていた時代があつた。
- e 「美しい」は王侯貴族のための言葉であり、「カッコいい」は大衆のための言葉である。

問7 傍線部工「第二次世界大戦によって既成の秩序が崩壊」とあるが、その後の日本の歴史的事実として適切でないものをa～fのなかから二つ選び、符合で答えなさい。

a 鹿鳴館外交 b 財閥解体 c 華族制度の廃止 d 象徴天皇制の開始 e 農地解放 f ベビーブーム

問8 傍線部オ「私は別に、『カッコいい』という言葉がありさえすれば『美しい』という言葉は不要になる」

と言っているわけではありません。」とあるが、それはなぜか。その解答にあたる以下の文章の空欄A Bを埋めることばを語群1から、空欄アイを埋めることばを語群2から言葉を選び、符合で答えなさい。

「A」は自分の欲望とつながっているため、対象と自分の関係が「ア」ことを前提とした利己的な感動だけしか表現できないが、「B」は対象と自分の関係が今のところ「イ」にもかかわらず重要な意味があると思ってしまう場合にも使用できるから。

語群1 「a カッコいい b 美しい」
語群2 「c 見えない d ある」

問9 本文の内容をふまえ、あなたが「カッコいい」と思う作品や物事を挙げ、それを知らない人にもわかるように、「カッコいい」と思う理由を説明しなさい。(200字程度)

問10 本文の内容をふまえ、あなたが「カッコいい」とは思わないけれど「美しい」と思う作品や物事を挙げ、それを知らない人にもわかるように、「美しい」と思う理由を説明しなさい。(200字程度)

II それぞれの問いに答えなさい。

問1 次の1～5の文を、意味に合う内容になるように、() に漢数字を入れて完成させなさい。

1 () () 里の道も () () 歩から
「意味」遠大な仕事も、手近な物事からはじまるということ。

2 () () 人 () () 脚
「意味」二人が協力し合って、物事をおこなうこと。

3 () () つ子の魂 () () まで
「意味」幼いころの性格は、年をとっても変わらないということ。

4 () () を聞いて () () を知る
「意味」一部分を聞いただけで全部を知ること。

5 () () の手習い
「意味」年をとってから、学問や稽古ごとを始めること。

問2 次の1～5の英単語の意味を下のa～hから選び符合で答えなさい。

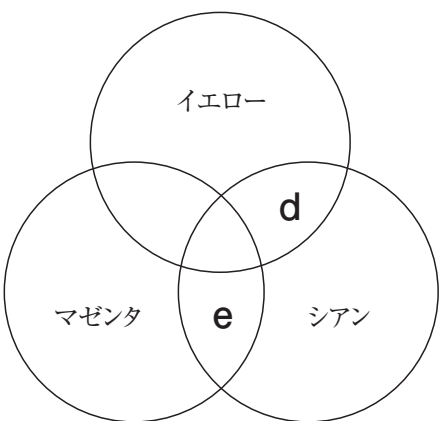
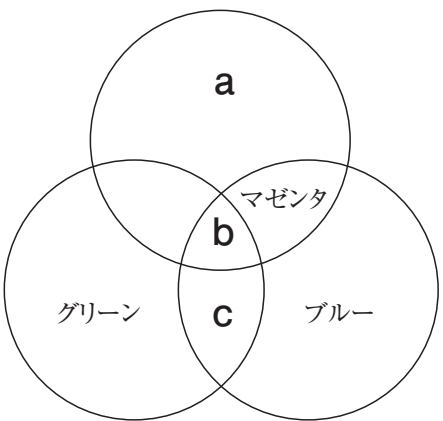
- | | | |
|-----------------|--------|---------|
| 1 environment | a 地域化 | e 地球規模化 |
| 2 resource | b 資源 | f 環境 |
| 3 globalization | c 人工的な | g 保存 |
| 4 preservation | d 予約 | h 自然な |
| 5 natural | | |

問3 次の図は(1)光の三原色と加法混色、(2)色の三原色と減法混色をそれぞれ表したものです。

a～eに該当する色を次の1～10から選び、符号で答えなさい。

(1) 光の三原色と加法混色

(2) 色の三原色と減法混色



- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1 ピンク | 2 レッド | 3 パープル |
| 4 ホワイ | 5 イエロー | 6 シアン |
| 7 ブラック | 8 グリーン | 9 ブルー |
| 10 グレー | | |



問4 次の1～2の説明文の空欄に入る語句を、各語群から二つ選び、符号で答えなさい。

1 日本の総人口は二〇〇六年から減少傾向にあり、二〇二二年三月末時点で、およそ「A」人である。一方、高齢者が占める割合は増加傾向にあり、六十五歳以上の人は二〇二二年九月末時点で、およそ「B」人を超え、国民全体の四人に一人に達しつつある。

A 「a 十三億二千三百万人 b 八千五百万人 c 二億二千七百万人」 B 「a 二千万人 b 三千万人 c 三億人」

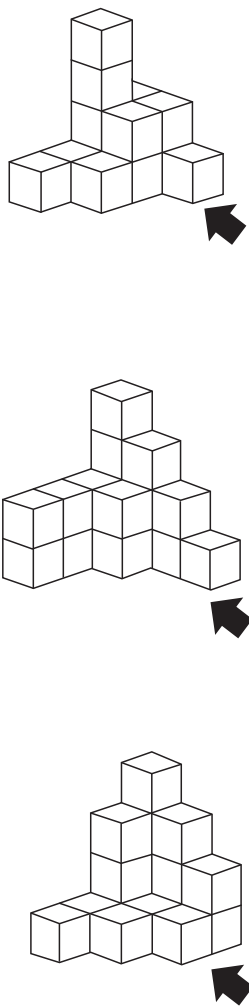
2 日本で消費税が最初に導入されたのは一九八九年のことで、当初の税率は「A」パーセントであった。一九九七年から五パーセントへ増加して以降は、低所得層ほど負担が重くなることなどから据え置かれてきたが、今後は二〇二四年四月に八パーセント、続いて翌年二〇二五年に「B」パーセントへの増税が予定されている。

A 「a 一 b 三 c 四」 B 「a 十 b 十三 c 十五」

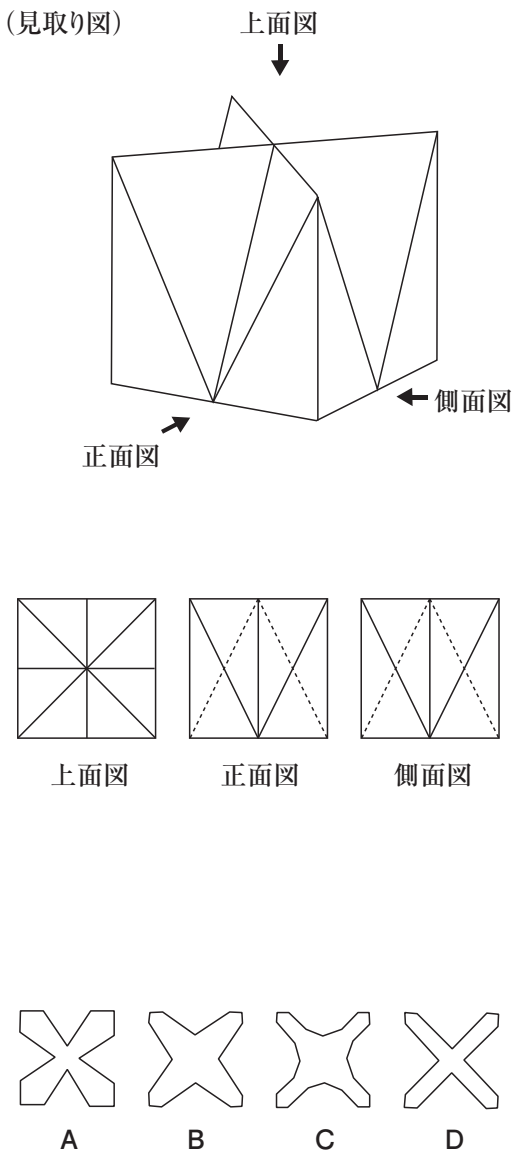
III それぞれの問いに答えなさい。

問1 左の図のように立方体を積み上げました。矢印の方向から見たときの全体の形をそれぞれ描きなさい

(解答用紙の一マス立方体一個に対応させてフリーハンドで描きなさい。)



問2 左の見取り図と三面図で示される立体を、上から4分の1の位置で水平に切断した時にできる断面図は次のうちどれか、符号で答えなさい。



問3 左記の展開図を組み立てたときにできる立方体を次の1～6からすべて選び、符号で答えなさい。

